

## 第4回名寄市総合計画策定審議会（教育文化スポーツ部会）

日 時 平成23年6月1日（水）18:30～

場 所 名寄市役所名寄庁舎4階大会議室

### 1 開会

### 2 部会長挨拶

### 3 議事

#### （1）報告事項

アンケート調査結果について

#### （2）新名寄市総合計画後期計画（素案）について

[主要施策]

- 1 生涯学習社会の形成（生涯学習課、図書館、北国博物館、天文台）
- 2 幼児教育の振興（こども未来課）
- 3 小中学校教育の充実（学校教育課、給食センター）
- 4 高等学校教育の振興（学校教育課）
- 5 大学教育の充実（名寄市立大学）
- 6 食育の推進（保健センター、給食センター、農務課）
- 7 家庭教育の推進（生涯学習課）
- 8 生涯スポーツの振興（生涯学習課）
- 9 青少年の健全育成（生涯学習課、児童センター、教育相談センター）
- 10 地域文化の継承と創造（生涯学習課）

### 4 その他

《次回部会日程》

第5回 専門部会 平成23年 月 日（ ）

## 前期計画点検・見直しにおける主な意見

### V-1 生涯学習社会の形成

#### ◆ 新聞マイクロフィルム化（市立図書館）

- ・デジタル化した方がいいのではないか。
- ・マイクロフィルムリーダーがなければ図書館以外で見ることができない。
- ・電子書籍にすれば大きい図書館を建てなくてもよいのではないか。

#### ◆ 文化センター改修（生涯学習課）

- ・市民ホールとどう機能させていくのか検証が必要。
- ・市民ホールの規模を大きくしないと満席になっても赤字となる。

#### ◆ スキー場の改修（生涯学習課）

- ・小さい子どものために50mぐらいのコンベアがあるといい。

#### ◆ 市立図書館（市立図書館）

- ・過疎法の対象になったのであれば、負担も30%で済むし、建て替えるならいい機会だと思う。
- ・「人」という財産があっても建物が老朽化しているため、より豊かに活かさない。
- ・近隣では下川や美深からも利用者が来ている。名寄としては道北の中核となる図書館だと思う。
- ・車椅子では狭くて閲覧できない。スペースもエレベーターも必要。
- ・地域や交通弱者のことを考えると、駅横に大きい図書館があれば、バスターミナルもあり、Qマートもあってとても便利だと思う。
- ・北広島市では図書館と駅がつながっている。通勤や学校帰りに図書館に立ち寄ることができるが、逆に遠くなる人もいる。
- ・市立図書館を大学に建てると、歩いて利用する人にとっては大変ではないか。今の市立図書館だと利用されやすい位置だと思う。

### V-3 小中学校教育の充実

#### ◆ 教育内容の充実（教育部）

- ・教育の成果はすぐ表れない。継続していくことが大切。
- ・「すくらむ」は気楽につけられるものの方が利用されやすいのではないか。
- ・小学校就学前から「すくらむ」があることを広めていけば活用されるのではないか。
- ・アレルギーも増えており、母子手帳のように一人一人に一冊の成長記録があるといい。
- ・「すくらむ」の取り組みにあたっては担当部署との連携が今後も必要だと思う。

### V-5 大学教育の充実

#### ◆ 大学図書館

- ・大学の中で一番劣っているのは図書館だと思う。国家試験の合格率が高く、人気も高い中で大学のレベルが図書館で計られる。

- ・学習室と閲覧室が続いていた気がするが、閲覧室に行くためには学習している人の邪魔にならないように行かないとならない。
- ・大丸デパートのように本屋の横に喫茶店があってもいいかなと思う。
- ・大学の各学科における議論では、本館側の駐輪場に建てたらいいのではという話が出ている。
- ・市立図書館と大学図書館が一緒になった場合、教員の研究費で買った本も大学図書館で登録しているため、一般の方に持ち出されると困る。
- ・託児などで市民と大学生が関わる機会があれば、市民と大学との距離感も縮まるのではないか。
- ・図書館の性質や目的から考えると、市立図書館と大学図書館は別々の方がいい。
- ・それぞれの目的が違うものを合わせた時にもっと良い物ができるかもしれない。今までに無いような新しい物が生まれるかもしれない。
- ・市立図書館には、児童学科の学生が週に1回通っているため、大学生と交流する機会はある。
- ・キャンパスの中に小さい子がいたり、高齢者がいたり、車イスで歩く人がいると素敵だと思う。
- ・市民が大学に出入りする施設は図書館でなくてもいい。食堂であってもよい。
- ・図書館を必要としている人が必要な場所にある方がいい。市立図書館と大学図書館を一緒にすることによって得る交流はあると思うが、別々にあるからといって交流がなくなることはないと思う。
- ・大学図書館の本館も分館も閲覧スペースが必要。
- ・スペースが狭いため、学習は実習室を使っている。
- ・グラウンドぐらいの誰も想像できない、ものすごい図書館ができたらすごいと思う。名寄の名物になるし、「図書館の隣に大学もあるんだ」となれば、すごいと思う。
- ・大学図書館の本館と分館を一緒にしてもらえるといい。本館と分館を行き来することがあり、吹雪の中、道路を渡って行かなければならない時もある。

#### ◆ 大学講堂

- ・恵陵館にある体育館の照明を明るくして多目的ホールとして使っているが、講演とか学会とか研究会があるときにたくさん入れる場所がない。
- ・学生だけではなく、地域の方も参加していただきたい講演があったが、席が足りなくて立ち見する人がいた。200人は収容できる講堂は必要だと思う。

### V-7 家庭教育の推進

#### ◆ 家庭教育の推進（生涯学習課）

- ・育てる側の親、教師、地域の人たちが育つ場があるといい。
- ・親や教師がそれぞれで学習するのではなく、育てる側として一緒に意識を持って育て合う関係になってほしい。
- ・行政ではそれぞれの部署で事業を行い、市民団体もそれぞれで活動している。それぞれが話し合える場があるといい。

### V-9 青少年の健全育成

#### ◆ 青少年の健全育成（生涯学習課）

- ・へっちゃLANDに大学生が手伝っているが、試験直前であり時期を変更することはできないか。
- ・大学生だけでなく、高校生のボランティアも必要ではないか。

別添 教育文化スポーツ部会発言内容（平成 23 年 6 月 1 日）

（開会）早崎課長

（挨拶）檜山部会長

— 以降、檜山部会長の司会進行 —

（１）報告事項

事務局からアンケート調査結果及び市長と大学生による懇談会の概要について報告

（２）新名寄市総合計画後期計画（素案）について

1 生涯学習社会の形成・・・粕谷生涯学習課長・宮下天文台長説明

（質疑・意見なし）

2 幼児教育の振興・・・吉原こども未来課長説明

委員：国では新たな子育て支援体系の検討とあるが未定なのか？

吉原課長：震災の影響で中断していた。連休明けから再開すると情報は入ってきている。3つのワーキンググループで議論をされているが、幼稚園側と保育園側ではそれぞれの思いがあって壁が厚い。議論はかなりされているようだが、結論に至るまでの話し合いにはなっていない。この結論如何で名寄市の方向も変わるものと思っているが、進んでいない状況となっている。情報としては、こういう議論をしたというものでしかない。

委員：子ども子育て新システムが決定したときには、それに従わなければならないのか？それとも地方で特色に沿ったやり方ができるのか？

吉原課長：必ずしも国のとおりにはならないだろうと思っている。実施時期についても猶予期間もあるだろうと思われる。名寄の場合、幼稚園は私立、保育所は公立であり、一体化することに大きな壁があると思われる。結論が出る時には、名寄市の方針としてどのような形にしていくか、これから出していかなければならない。

委員：新システムを新聞で読んだ印象としては、使うお金を減らそうという方向ばかりに行っている気がする。民間企業の経営とかが入ってきて、子どもが豊かに育つというところがなく、はき違いや勘違いが起こるのはとても怖いという印象を受けた。一番大事なのは子どもを豊かに育てることが幼児教育だと思う。

吉原課長：子どもが主体だと考えている。いい形で考えていきたい。

3 小中学校教育の充実・・・河合学校教育課主幹説明

委員：「携帯電話に関わる指導の充実」とあるが、今、どういう状況なのか？

大久保参事：中学生では半数近くの生徒が携帯電話を所持している。公開されるサイトの中で個人が特定される危険性がないか、有害サイトも大変なことになるし、犯罪にもつながるものであり、今後、保護者とともに使い方に気をつけていきたい。

委員：学校に携帯電話を持っていけるのか？

大久保参事：学校には持って行くことはできない。

委員：昨年、文科省がノート減らすためにスキル教育を発表したが、名寄ではどのようにやっていくという方向性があればお聞きしたい。

大久保参事：キャリア教育と表現しているが、新学習指導要領の中でも記載されている。中学校では体験学習をしているが、小学校では将来のことを考えながら日常の授業を有効に活用し、そういう場面があれば取り寄せていきたい。

委員：「耐震診断が必要とされている学校が9校」となっているが、耐震診断はどの程度か？

河合主幹：2次診断はできていない。今後、施設整備計画の中で耐震診断をやっていない校舎を計画的に進めていくが、財政の問題も出てくるのですぐに取り掛かれるかどうかの問題もある。文科省では東日本大震災もあり、耐震化については進めていくという方針が出ている。

委員：「児童生徒数の減少に対応するとともに」とあるが、適正規模や適正配置で変わって来ると思われる。改修も同時に考えていくのか？

河合主幹：今年4月に学校施設整備計画を策定している。市街地区の小学校5校については適正配置のあり方について検討を進めていくが、他の学校については耐震診断をしながら子どもたちの入って来る動向等も見ながら検討をしていきたい。

委員：適正配置や適正規模はどこまで話が進んでいるのか？今、検討中であれば、どこで誰が決められているのか？例えば、豊西小学校も南小学校も古くて、それをくつつけるとか決まっているのか？

河合主幹：今のところ決まっていない。南小については築後40年が経過しているし、豊西小についても後期計画期間内に40年が経過する。名小、東小、西小については耐震化されており、当面は維持できると思う。ただ、老朽化した2校についてどうするのか、また、名寄市街地区の今後の児童数がどうなるのかを見極めながら、6月に検討委員会を立ち上げ、答申をいただくことになる。その中で議論を進めていく。

委員：前期計画でも後期計画でも「確かな学力の向上」となっているが、聞くところによると中学校・小学校からのレベルが低いと聞いた。試験による結果なのかはわからないが、高校もできる子とそうでない子の差が激しくなっているとも聞いているし、名寄大学に入れるレベルではないとも聞いている。下川では商工会で塾のようなものを行っているが、独自の学力向上のために取り組んでいるものはあるか？

大久保参事：1つ目は授業をきちんと教えるかであり、先生方の授業方法を充実する。2つ目は子どもたちの意欲の問題であり、学ぶことは楽しい子はいるが、さらに勉強という自分の努力が必要である。3つ目は放課後の遊びがテレビやゲームとかであり、学習習慣がないことが多い。現在、放課後子ども教室を計画している段階であり、少しでも学習に対する意欲づけができればいいと考えている。

委員：上からやれではなく、楽しくなれるような仕掛けづくりが必要だと思う。

#### 4 高等学校教育の振興・・・河合学校教育課主幹説明

(質疑・意見なし)

#### 5 大学教育の充実・・・丸箒大学教務課長説明

委員：新聞にも掲載されていたが、大学の国家試験合格率が非常に良い。そうした中で学校の整備がどれぐらいしっかりできるか、予算の絡みもあると思うが、学生が過ごしやすい環境を提供していくことが必要だと思う。

## 6 食育の推進・・・・・・・・鈴木教育部長説明

(質疑・意見なし)

## 7 家庭教育の推進・・・・・・・・粕谷生涯学習課長説明

(質疑・意見なし)

## 8 生涯スポーツの振興・・・・・・・・粕谷生涯学習課長説明

委員：「冬季競技を中心にタレント発掘」とあるがどういうことか教えていただきたい。

粕谷課長：タレントという表記を使ったが、競技アスリートを指している。そういうことを核にやる子どもを発掘していく。そういう表現をスポーツクラブではしている。

委員：ウインタースポーツに限っており、サッカー選手や陸上選手などに関してはどう考えているのかと、この文章ではそう伝わってくるのだが、どう考えているか？

粕谷課長：基本的には全体的なスポーツ振興としているが、ウインタースポーツを今回記載させていただいたのは、カーリング場が設置されたこと、学校児童生徒が授業の中でスキー・カーリングが現状行われていることも含めて、この文面にさせていただいた。

委員：決して悪くはないが、「冬季競技を中心に」という表記は変えた方がいいのでは？陸上競技場にしても全天候型にするとか考えられないか。豊西小学校に陸上の先生がいて、走る子どもが延びたという実績がある。彼は堤防を走っていたが、中学生になると陸上競技ではスパイクを使う。施設がないと高校や大学に行った時にトラック競技ができないこともある。土別に施設があっても小学生や中学生にしてみればなかなか行けない。今ある施設を今の時代に合うようにグレードアップが必要ではないか。ジャンプ台も 50m では小学生が飛べる台がない。下川では 5m の台もある。タレント性や選手を発掘するのであれば、幅広い施設整備を考えていただきたい。

鈴木部長：今回、カーリング場を整備したため、後期計画 5 年間の中でうまく活かす形でそうした表記とさせていただいた。

委員：上川北部 5 市町村とはどこか？

粕谷課長：下川、名寄、美深、中川、音威子府、上川北部と言われる 5 市町村となっている。

委員：各連盟があると思うが、それはとは別にスポーツクラブを設立しているのか？連盟もあるし、風連にはスポーツクラブポポもあるが、それとは別に設立してタレントを発掘するのか？

粕谷課長：指導者も子どもも 1 市町村の中では難しい。いろんな体験を子どもたちがして、自分にあったスポーツを見つけ出していくものであり、名寄の子どもについては美深で体験する、他の地域の子どもは名寄のカーリングを体験する、一市町村では持ちえないものを広域的に子どもたちに提供していく観点から平成 22 年に設立された。

委員：子どもたちを見ている専門的な人が「うちに来い」となるのか？それとも楽しいと思った子どもが連盟とかでやらせてくださいとなるのか？

粕谷課長：できたばかりで具体的なものはこれからとなる。平成 22 年は子どもたちに体力テストを実施した。判定員の結果、一定程度の能力がある子どもたちを会員にして、いろんな体験をするのが昨年の取り組みであった。今年からは体力テストの判定に合格していない子どもたちも含めながら進めていく。昨年は年間 10 回ほど子どもたちにいろんな体験していただいた。その中で名寄の子どもが美深の少年団に入った子どもがいる実態はあるが、それを目的に進めているわけではない。今後、そ

ういう部分も視野に入れながら運営していこうとしている。

委員：スキー・カーリングを入れてくださったことにうれしく思う。名寄という地域、北国を活かしたスポーツとして入れてくださったとうれしく思う。特に子どもたちにとっては、スキーができるとか、カーリングをしたことがあるというのはとても素晴らしい体験である。大々的にやってほしい。

#### 9 青少年の健全育成・・・石橋児童センター館長説明

委員：放課後児童クラブの説明で民間2か所のうち1か所はコロポックルと言われていたが、もう1か所はどこか？

石橋館長：もう1か所は“どろんこはうす”である。

#### 10 地域文化の継承と創造・・・粕谷生涯学習課長説明

委員：実施計画事業で「文化大ホールの整備」という言葉から「市民ホールの整備」に変わった。言葉からして小さくなってしまったというイメージを受けた。市民会館の老朽化に伴った代替施設から市民ホールとなったのか？

粕谷課長：この間の議論では文化大ホールで進んでいた。今回、市民会館の建て替えが大前提で建設することが可能になった。名称については仮称としているが、市民会館のホール機能を市民文化センターの隣に持っていくことで市民ホールとなった。規模については、小さくというよりも市民会館のホール機能を建設するということであり、市民会館の貸し館の部分は市民会館に置くという、一つ一つの整備の中で市民ホールという名称を使っている。基本事業の文化大ホールについては変わらないが、実施計画事業では現状の市民ホールと変更させていただいた。

委員：アウトラインは全くできていないのか？

粕谷課長：平成21年度、市民懇話会で報告いただいた中では、市内の団体が使いやすい席数として500席、また、全道大会等を誘致するために800席、500席ないし800席の2者択で報告書をいただいている。今年、基本設計をプロポーザル方式で入札し、500席が妥当なのか、800席なのか、基本設計の中で総体的に議論を詰めていく。今の段階では答えられるものはない。

委員：市民会館のホールは350席であり、それよりも大きくなるというイメージはあるが、1000は多すぎると思っている。中には1200席ぐらいなければという考える人もいるが、だいたいのイメージをわかせたかった。